世はまさにリスクだらけですね

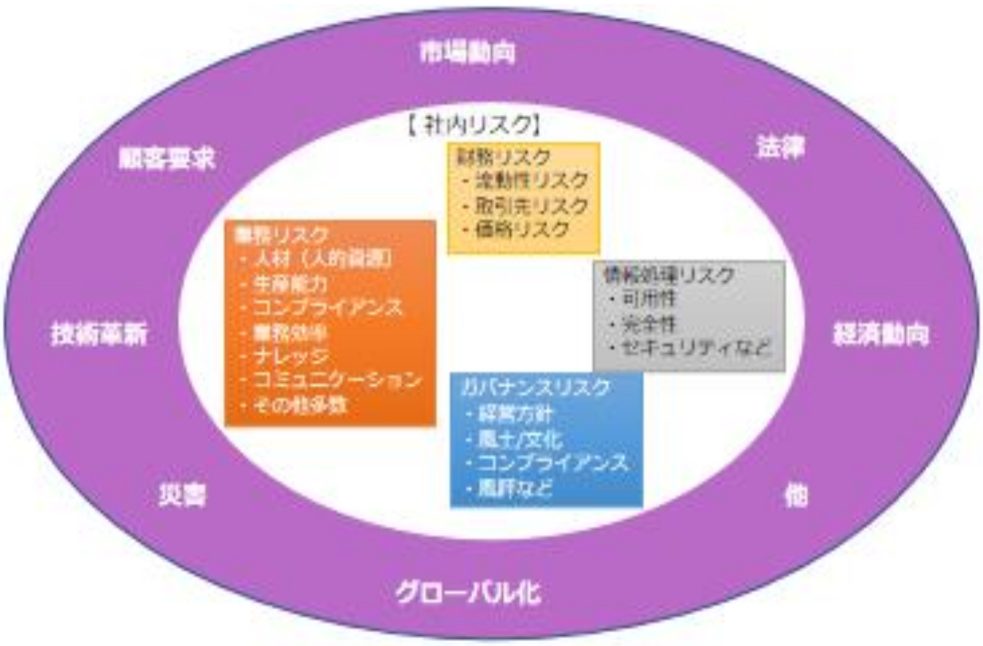
リスクは社外にも社内にもたくさんあります。

これらのリスクは、他のリスクと紐づいて、より厄介なリスクやトラブルを引き起こすことも多々あります。

そのために、各部署で部署毎のリスクを管理するのは当然として、企業視点からリスク全体の俯瞰、関連しあうリスク因子の洗い出しやモニタリングなどが必要です。

- 社外リスクの例

- 社内リスクと社外リスク



弊社に無断で、本資料、または一部の文章や絵などを複製や２次利用なさることは禁止されています。

何故、システム的なリスクマネジメントが導入されてこなかったか。

儲からないという思い込みがあります

そもそも串刺しの事業横断的なリスク真似締めとシステムがありませんでした

業務プロセスに組み込む方法がわからないし、面倒くささそうという苦手意識があります

実は儲けるためのリスクマネジメントであり、企業の羅針盤として機能します

- 既に導入または運用しているという考え
  - 確かに、売上に大きなウェイト（おおよそ１０%以上）を占める事業などに対しては、リスクを把握・管理しているケースが多いものの、新たに出現したリスクや他のリスクとの相関については、迅速かつ的確に対応できる体制が整っているとは言い難い状況です。経験則的にリスクマネジメント的なものを運用しているケースも少なくありません。

- 業務プロセスにリスクマネジメントを組み込んでも費用対効果が見えない
  - 日本においては、リスクマネジメントが損害保険的に捉えられてしまいがちで、リアルタイムなリスクマネジメントシステムを導入しても儲けにつながらないと考えられています。残念ながら、これはいまだに島国的発想が残っている日本固有の考え方で、グローバルな知見からははるかに後れをとっています。

- 日々機能する全社的なリスクマネジメントシステムを組み込む仕組みが無かった
  - リスクマネジメントはバックオフィスの担当部署や目に見えるリスクが常に発生する可能性のある部門がやればいいという意識が常態化してしまっている企業も少なくありません。しかし、何でもありの現代社会においては、リスクは常に身回りにあることを意識して取り組む必要があります。そのため、日常の業務プロセスの中でもリスク管理を行える仕組みが必要となります。

弊社に無断で、本資料、または一部の文章や絵などを複製や２次利用なさることは禁止されています。

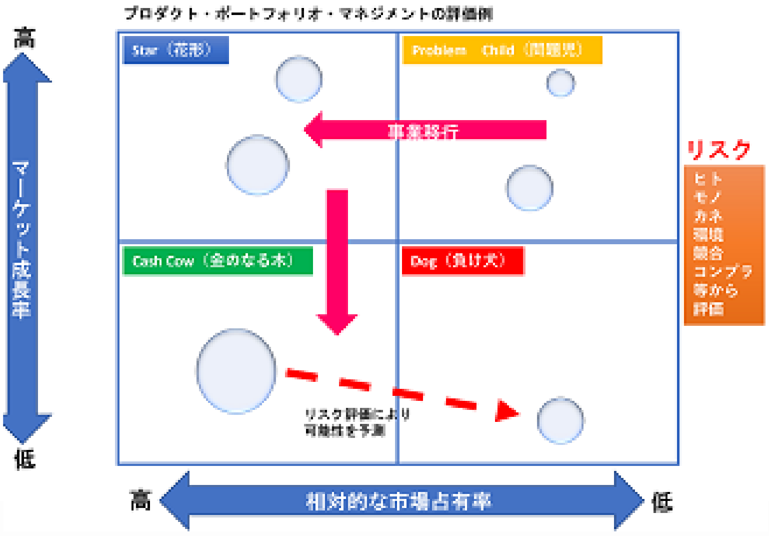
何故、リスクマネジメントが儲かるのか？

無謀と勇気は違う

これまで大丈夫だったから、何とかなる・・・そんな思い込みで事業が危機に瀕する前にリスクマネジメントを用いて合理的な対策を講じることができます

環境変化のリスクや突発的なリスクが他のリスクにどのように影響するのかなどを総合的に判断できる仕組みには、リスクマネジメントの手法が必須です

- リスクマネジメントは後ろ向きではありません！
  - 事業戦略策定時におけるリスクマネジメントの役割
    - 企業が事業戦略や計画を策定する際、これまで成功している事業であっても、環境の変化や競合他社の動向、技術革新などをしっかりと見極める必要があります。そして事業毎にリスクをしっかりと把握し、リスク許容度、リスクが変化した時の対応などを綿密に取り決めることで、事業の成功により近づき、計画通りに行かなかった場合の損失を最低限に抑えることができます。



  - リスクを取って参入・継続すべきかの判断**（リスクとリターンの見極め）**
  - 撤退または参入見送りのための合理的検討**（データ分析により感情論に流されない）**
  - リスク発生時の損失額のミニマム化
  - 未知のリスクへの感応度の向上による対応の迅速化
  - 見過ごしがちなリスクの顕在化による早期発見と対応（ロスの低減）　　etc

弊社に無断で、本資料、または一部の文章や絵などを複製や２次利用なさることは禁止されています。

AIをリスクマネジメントにどのように適合させるか

リスク評価
リスク分布
KRI設定
など

重大リスクを引き起こす源泉系リスクデータなどから重大リスク発現予測と発現した場合の損害をＡＩで予測できます。

更にシステム化を行うことで、業務負荷をかけずに、リスクへの早期対応と業績への貢献が可能です。

準備段階（リスクアセスメントの例）

*業務や内容でリスク抽出方法は異なります。

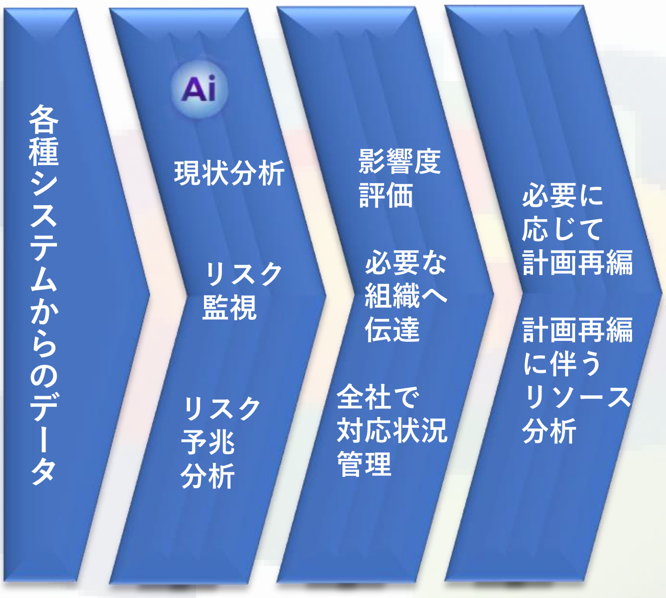
①リスクを評価し、顕在化させる

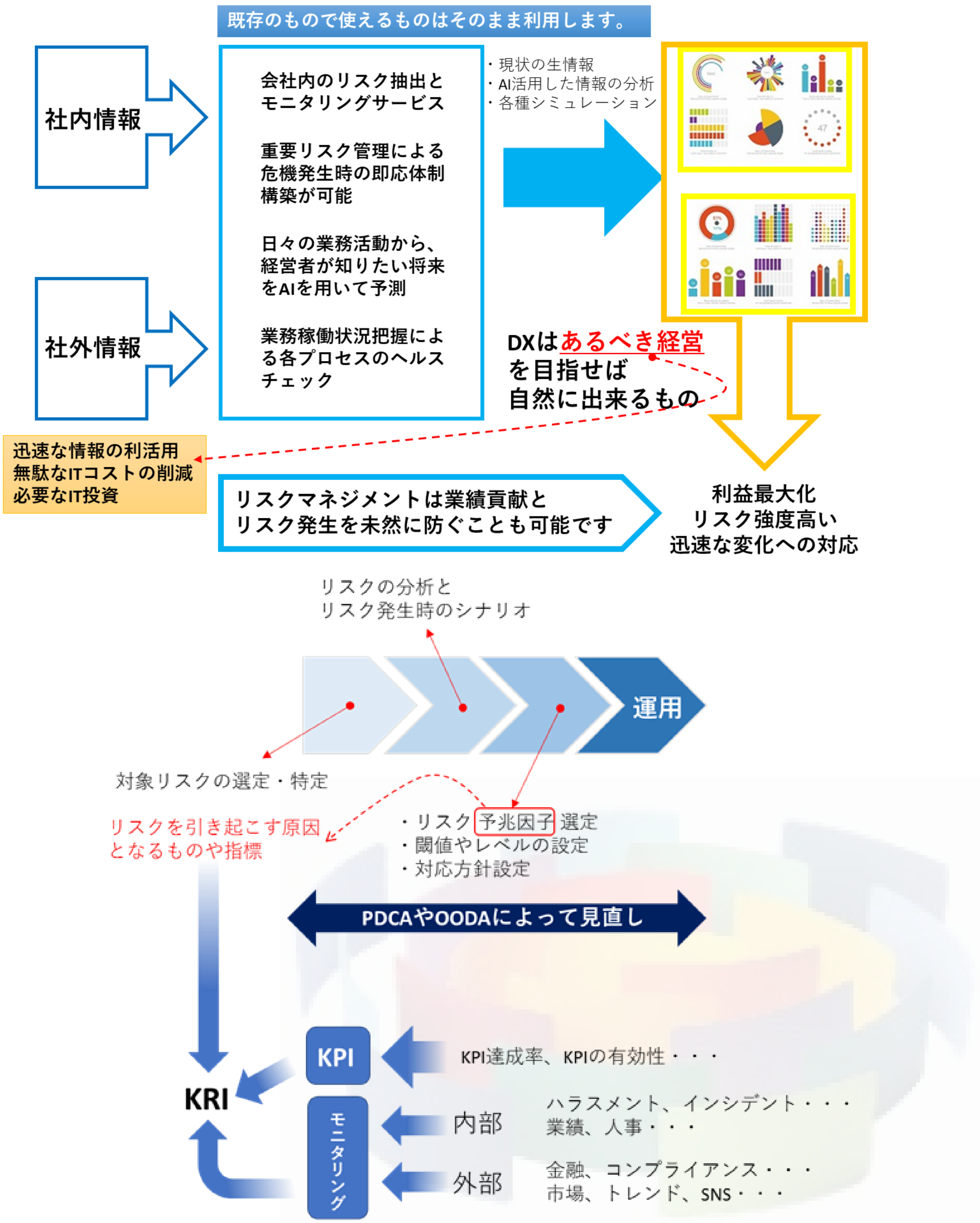
②そのリスクを管理可能な状態にするために
　影響度と発生可能性などでスコア化

③特に重要なリスクに対してはKRI（重要リスク
　指標）を設定する

弊社開発のリスク評価分析ツール

④抽出されたリスクへのコントロール
　の有効性評価などを行い、各データとの連携
　システムを構築。業務負荷をかけずに運用



弊社に無断で、本資料、または一部の文章や絵などを
複製や２次利用なさることは禁止されています。

BiziMOAのリスクマネジメント概要